

●議事1：生活支援体制整備事業における取組状況および課題解決について

意見
学区ごとに有志を募り、「スマホ教室」を開催し、運営ノウハウや教室内容の先進例を調べる。
高齢者の孤立感を防ぐことを目的として、例えば、高齢者と児童が交流する機会を持つような高齢者とその学区の小・中学生との手紙のやり取りを実施してはどうか。
小学生の朝夕の交通安全の見守りをやってはどうか。子どもから元気ももらい、それが高齢者の活力向上に繋がり、ご近所との繋がりが増え、気力、意欲の向上になると思う。また、高齢者の経験や知識を活かす為に、どの様な能力、知識をお持ちになられているか、情報収集が必要と思う。（第2層SC、町内で情報収集し、それらを必要とされるニーズを町内、地域で確認してマッチングしてはどうか。）
地域に根ざして近所の人を見守る為には、何が地域の良き伝統なのかを確認し、実行しようとする人がどれだけいるのかが大切ではないか。
高齢者の孤立化防止策として、高齢者自身もいろんな役割を担う心構えを持つことが必要と思われる。地域の「担い手」として活動する第一歩として、ポイント制の導入などの動機付けも効果を上げることも考えられると感じた。
シルバー人材センターへの登録の声掛けや自立した生活を継続するための高齢者の料理教室、DIY教室、パソコン・スマホの使い方教室、園芸教室、農業体験教室などの開催により、孤立化している高齢者を抽出して外出する機会をつくるのが大切だと思う。
「向こう三軒両隣り」の関係を大切にすると良いと思う。
民生委員、地域の福祉担当者がいかにして高齢者の孤立状況を把握し、孤立防止に関わるか。
高齢者の孤立化を考えるにあたり、やはり男性の参加を増やすことが重要だと思う。それぞれの高齢者が培われた知識や技術を現役世代が高く評価し、自分が必要とされている（頼られている）という雰囲気を作り、地域の活動や近所付き合いに参加してもらうようになればと思う。ただ、個人のプライバシーへどれくらい踏み込めるのかが課題だと思う。
足腰が弱り、外出は出来ないが、自宅なら出来る特技を持っている方が存在されていると思う。特技（手芸・書・絵手紙など）を教える代わりに、買い物、ゴミ出し、家事支援をしていただくといったことがあっても良いと思う。
「地域のニーズ」と「担い手となる高齢者」をつなげる（マッチングさせる）機関が必要と思われる。孤立状態にならないようにできるだけ元気なうちからコミュニティ（友達・近所付き合いなどその方に合った）を作れるようなアプローチが必要と考える。（居場所づくり）
地域の老人会と子供会の定期的な交流は有用かと思う。
各学区の医療福祉を考える会議にて検討し、地域住民の方々の意見等を反映しながら課題解決して取り組むのが良いと思う。そのために、各学区の医療福祉を考える会議の役割について今一度、地域住民の方にわかりやすく、地域の高齢者等を地域の住民、介護保険事業所、医療機関等で支えていく為にどのようなことが課題なのか、どのようなことなら出来るのか等を考えてもらえるように再周知した方が良いのではないかと思う。
高齢者の孤立化や活躍の場所を身近に提供できるのは町内会だと思う。近所の一人暮らしの高齢者へのお声がけや、困りごとなどを聞かれたら町内の役員さんに報告していただくことで孤立化を防げると思う。
高齢者の皆さんに小学生の通学見守りをお願いしたり、行事のお手伝いをお願いすることでコミュニケーションをとりながら、繋いでいくことが大事であると思う。
総合事業の事業対象者をマンパワーとして、第二層においての拠点を創って緩和型デイなどの運営ができないかと思う。現在運営しているデイの定休日などを有効に活用しても良いかと思う。また、運動などへの特化だけでなく、高齢者の活躍の場として、地域の高齢者が気軽に立ち寄れるような場所づくりに関わってもらえることができれば、いざ介護等が必要になった時のことを考えても、受け入れ等しやすいのではないかと思う。
高齢者が何でも話が出来る場を作る。（居場所）
地域で活動した仲間（昔からの仲間）に声をかけ、趣味、活動内容を話し合い、遊ぶ場を作る。
地域サロンがあるが、参加出来ない人が多い。町内でふれあい祭、文化祭を身近に、趣味の作品展を行い参加出来るよう呼びかける。
コロナ禍において希薄化している人の繋がりを新しい生活様式のもと、行政・事業者・自治会・子ども会・民生委員などからの相互作用によって課題解決につながるような何らかの活動を生み出す「場」こそ、支援者の繋がり（業者や介護事業者等）から、「居場所」になり、対話が生まれ、役割が見出せ、生き甲斐に繋がると思われる。
課題にもあった通り、男性は今まで仕事に時間を捧げてきた方が多く、退職後になかなか地域に馴染めない方が多いと思われる。仕事ややりがいを見出すことで、自身と同じ気持ちを持った仲間が出来てきて、その仲間と交流する事により地域にも馴染めると思う。60歳代の早めからシルバー人材センターのコミュニティを活用することにより、男性高齢者の支援体制作りが出来るのではないか。